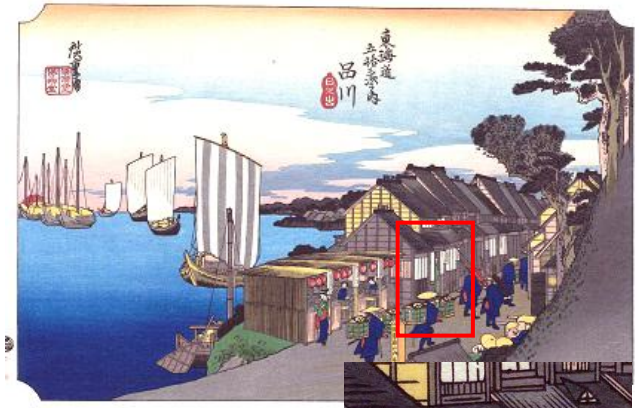
## 2023.11.25 シニアクラブ Online 会合報告

11月25日と言えば、かつては『ハイビジョンの日』と呼んでいました。テレビ放送がアナログからデジタルに変わり、すでにこの言葉は忘れ去られてしまったようです。

今日は北風が吹いて前日に比べて昼間の気温が一気に10℃近くも下がるほど、寒暖の変化が激しい日となりました。短かった秋も終わりを迎えたようです。

今年の大河ドラマ「どうする家康」も残りあと１か月、関ヶ原の戦いも終わり、あとは大阪の陣に臨むところまできています。家康が天下を治めて後、取り組んだ大事業の一つが街道の整備でした。それから200年、1800年代になると広重をはじめ多くの絵師達がそこを往来する人々の姿や景色を浮世絵に描くことになりました。

この会合ではそれらの絵や資料を眺めながら江戸から京に行き、そして次には京から江戸に戻りまた京に向かうと、何度も「東海道もの」をテーマに話をしてきました。浮世絵を見れば見るほど、その中にいろいろな意味が込められていることが分かります。そのことを説明する本もあって、今回は「今一度」そのような資料の助けを借りて広重の絵を眺めてみることにしました。



右は『品川日之出』の図です。朝早く日本橋を出発した大名行列の最後が通り過ぎていくところが描かれています。道端では編み笠姿の旅人たちでしょうか、道を開けて見送る姿が描かれ、茶屋の女はこの行列では客引きできる相手ではないので、あまり関心を示さず眺めているようです。その中で、戸を少しだけ開けてこの行列を見ている一人の男が描かれています。この男は何者なのでしょうか。（部分拡大図参照）

説明本には品川宿とはどういう所か、そしてこの男がここに居る目的はなんであったかなど、推測を交えた文章が書かれています。

尚、大名行列に土下座して控えるのは将軍家、御三家に対してのみで、他の大名行列には立ったまま道をあけるだけでよかったようです。

この他、神奈川宿、丸子宿などの説明は次のページを見てください。

☆　浅見さんから、鉄道唱歌の紹介がありました。浮世絵で東海道を旅するだけでなく、歌で旅をしようというものです。東海道編だけで66番まであり、その他全国各沿線でそれぞれ鉄道唱歌があるとのこと、説明は次を参照してください。

誰もが（1番“汽笛一声…”なら）知ってる
**鉄道唱歌**

唄って旅する東海道
鉄道唱歌 東海道篇（全66番）を唄います
11回～

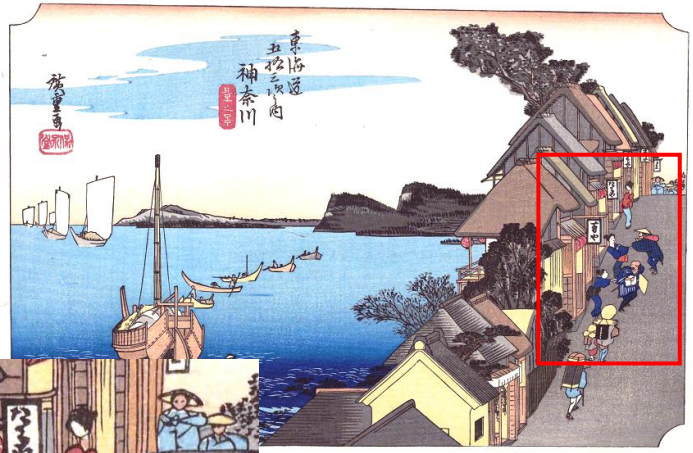
https://www.youtube.com/watch?v=O_ZcUkIAfi8　右 QRコード

尚、東海道編の歌詞は　http://jvc-senior.com/20231124railwaysong.pdf　参照

☆　宮田さんから北斎の富嶽３６景をまとめているとの話もあり、Online 会合は鉄道唱歌や浮世絵をテーマにいつまでも続きそうです。

2023.11.26　JVCKW シニアクラブ事務局長　　田代　周

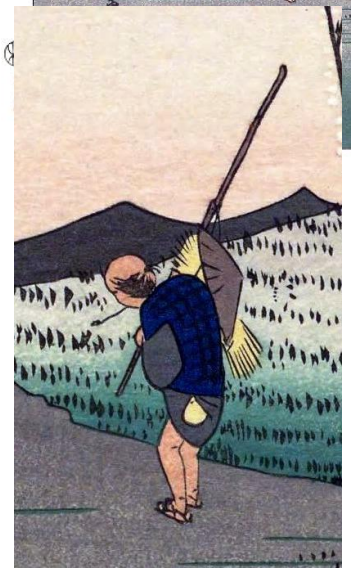
品川宿では店の前を通る大名行列にはさすがに手を出せなかったでしょうが、神奈川宿では茶屋の女が旅人に強引な客引きをしています。



坂道に沿って並ぶ茶屋は海に臨んで建ち風光明媚な景色を楽しむことができました。

現在の横浜駅は海に浮かぶ帆掛け船の辺りになります。明治５年、汽笛一斉新橋からの列車はこの辺りは土手が造られて、当時の横浜駅（現在の桜木町駅）まで海の上を走っていきました。鉄道はさらに西へ延伸され、この一帯は埋め立てられて新しい横浜駅がそこに移ってきました。

左は東海道第 35 宿「御油の旅人留女」。36 宿の「赤坂宿」とは距離が近く、ここの客引きは強烈だったようです。
夕方ともなるとこのような姿がいたるところで見られたのでしょう。



上は東海道第 20 宿「丸子名物茶屋」です。左の人は足に脚絆を巻いておらず、旅人ではなく地元の人であると分かります。長い棒は自然薯掘りに使うもので、今しがた自然薯をこの茶屋に届けて、腰に吊るした巾着を膨らませて戻っていくところです。

広重は実に細かいところを描いています。茶屋の看板には「名ぶつ とろろ汁」と書かれていて、この店は現在も営業しています。

写真は15年前に東海道を実際に歩いた人からいただきました。